

令和8年度 前田中学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：37504

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇課題探究的な授業を取り入れた、わかる・できる・楽しい授業づくりの充実を昨年度取組の1つとして掲げたが、生徒アンケート項目「自分は基礎基本が身に付いていて、授業の内容がよくわかる」に肯定的な回答をした生徒の割合が2・3学年ともに10%以上上昇している。</p> <p>◇昨年度課題にあげた「自分の意見を進んで発信しようとしている」「振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある」などの共通指標アンケートの結果が昨年度に引き続き上昇傾向にある。</p>
	<p>◇生徒アンケート項目「自分は積極的に授業に参加している」の肯定的な回答の割合が各学年減少している。各教科担任の実感としても、入学したばかりの時期と比較して授業中の発言・反応など、消極的な生徒が増えているという意見をよく耳にする。また、共通指標アンケート項目「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」についても、上昇してはいるが他の項目と比較しても低い割合にとどまっている。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇共通指標の相互承認に関連する全項目において、肯定的な回答が昨年度同様、札幌市全体と比較しても高く、高い割合を維持している。ICT 端末を活用した協働的な学習の実践の積み重ねや、子ども同士による行事後の相互評価の場を設定していることがこの結果に寄与していると考えられる。引き続き、他者と協働する必要を感じたり、自分に自信をもったりできるような場や価値付けが重要となる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

進んで意見を伝え合い、難しい課題にも挑戦しながら学びを深めること

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 本校研究テーマの「「できた」から「できる」へ～自他を通して育む、自らの価値創造」に基づき、教職員が互いの授業案や授業自体の交流する機会を設定する。</p> <p>(2) 単元だけでなく毎時間の課題解決型の授業を目標に、<u>スモールステップ</u>を踏んで「できた」と実感できる場面を意図的に設定する。</p> <p>(3) <u>協働的に学ぶ場面</u>を設定し、自分の考えを他者に発信する機会をつくりだす。</p>	<p>①「子どもの声を聴く」ことを大切に生徒会活動の充実 →<u>生徒総会やそれに向けた学級議案審議、各行事の大綱審議等で要望をとり議論するなど「生徒の意見を反映させる」取組の実施</u></p> <p>②学年協議会等をふくむ生徒会組織全体の活性化 →<u>生徒の企画・運営による集会等の実施、一人一役の学級活動の充実</u></p> <p>③さっぽろっ子サミットと関連を図った活動の推進</p>
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p> <p>◇ (3) などにおいて、ICT を活用することで、意見を進んで伝えやすくなることは共通指標のアンケート結果からも明らかである。よって、ICT の機能に関わる新たな情報や実践例などを積極的に教職員に発信する。</p> <p>◇ ①などの場面について、ICT を活用して各自の意見を集約し、可視化するなど、一人一人の意見や考えが反映するシステムを生かす。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

